

## 私の師嶋野タイ栄道への公開状

(1979年3月29日に書かれたが、投函されなかった)

甘い理屈には限度があります。絶対にたどり着くことのない和解を待ち、万が一を頼んで真実と公明正大に望みをかけ、結局誇りと欺きの間を左右するに留まり、自己中心癖と無法の鎧兜の隙を探し一古い鼻紙のように弟子達を使い捨て、それを良しとする貴方を保護する鎧兜、私は是等の甘い理屈に疲れしました。

この問題を論ずる難しさは、事件そのものが散漫であり、長期に渡って行われて来た事で、もしこの事件を一件か二件目撃しただけならば容易に許してしまう事でしょう。“畜生め、一体全体どうなっているのだ？”私もよく自分に向かってこう吐言したものです。“老師は丁度この私のようにムラ気なのだ。”老師は私と似ていると思いました。もし私達に類似性があるならば、一人間であり、弱点があり、時々怒り、皮肉になり、卑劣にもなる—それでは私達は他の面でも類似性がある、多分貴方もそうだったと思うのですが、何時の日か私も悟りを開いてそれを帯の下にしっかりと納める事が出来るかもしれない。私も又老齡の賢い師のもとに参じて、私の達成した偉大な何かを認めてもらえるかもしれない。貴方は師であり、師は崇拜されるべきもの。私はこの崇拜心をどのように表現したら良いのか分かりませんが、1974年以来私は最善を尽くして来ました。

223東67番街の長い清潔な禅堂を、私は当時も今もどれほど気に入っていたか、美しい床の上に並んだ黒い座布団、その上に私達は座って40分ほど黙座した、あの静寂！何と言う厳かな静寂。説教も説得も反論もない—或るは唯私達皆がやがてたどり着く静寂。私はこれが好きだった。初め私は他の人びとと同じようにこの組織について、他の組織と同じようには考えませんでした。組織には金が必要でした。貴方が精力を傾けて禅堂で基金活動を行っていた時も、ほんの少し嫌な気がただけでした。丁度カトリックの教会のようで、私の好みではなかったけれども、それでもこれは山林の禅堂、大菩薩の何世代にも渡る未来の修行場、あの静寂な黙想の場のためなのです。禅仏教の普及を助けるため長々しい説教で自分の原則を少し曲げなければならなくても、それはそれで同じ正道を歩いていることになると思います。これは大事業でした。3百万ドルです。今は私にも幾らか理解力が備わって来ましたから、貴方の奮闘を妬んだりはしません。あれは意味のある奮闘だったと思います。そして、僅かながら、この私も貴方の奮闘に参加した事を喜んでます。

しかし1975年になり、後にユーモラスに表現して“Fuck Folly”馬鹿者の道楽と名付けました。これが少しずつ表面化していったのですが：師は僧伽の中からセックスの相手を選び出し、他の人びとには色目を使うという行為が続きました。しばらくの間私には信じられなかった。貴方は妻帯者であり、師であり、倫理を重んじる戒律を身上とする地位にあります。“老師は馬鹿な事をする、私も馬鹿な事をする、老師と私はやっぱり似ていたのだ”と思いました。しかし私は貴方の情婦達と話をする機会がありました。それではっきり分かったのですが、彼女達は皆”自分一人が老師の女“だと信じていたのです。そして間もなく彼女達はみな捨てられました。私は聞いたのですが、貴方と貴方の師と、貴方の妻と、一人の僧伽のメンバーとの間で闘争があったそうですね。貴方の師は貴方に向かってに貴方自ら、公式の席ではっきりと告白すべきであると言われたと確かに聞きました。それでも、その時が来ると、三宝の一つ、貴方の僧伽への、又弟子への言葉は：1.お前に関係ない、そして、2.貴方は僧伽を解散し、皆は会員になるための再申請をしなければならぬと言う事でした。それぞれ旧会員は再申請のための葉書を受け取るであろうと通告されました。当時貴方に賛

同じなかつた人びとは、葉書は来ないものと諦めていました。とにかく、貴方は勿論知っている事なのですが、葉書を受け取った者は一人もいなかった。ついに、賛同しなかつた人びと、意見を表明した者は去りました。僧伽は一人の非難者もなく、再び安全になりました。

私は残りました。残った理由は、今思えばはっきり分かります。私が残った理由は去るのが怖かったからです。私は自分の混乱を明らかにするために入門したのですが、逆に新たな混乱を与えられました。それでも猶、私は何かを失うのではないかと恐れしました。その何かというのは、禅堂であり貴方の教えだったと思います。貴方は私に逆教授というものを施し、無感覚が愛情に取って変わったと思いました。良い厳しい教えだと思いました。貴方はそれを私にくれたのだと思いました。私は力強く成長するでしょう。

時は来り去りました。いろいろな物語があります。ある弟子が大菩薩で儀式的自殺を計った話。貴方が関係を持った女性達の話。しかし最初の事件の後、私は貴方の馬鹿者の道楽から眼と耳を閉ざしました。私は座布団の上に座って、周囲で起っている事に関しては、なるがままにさせておく事にしました。他の人びとが貴方の“尊大、欺瞞、誇大妄想”を非難しても、それはその人の選択です。私は貴方の教えを求めて此処へ来たのではなく、禅の修行の源 - 坐禅の為なのです。私は一段貴方から遠のきました。私は貴方を信用していません。それでも私は時と場所をわきまえて、気持ちよく振舞う事だけは忘れませんでした。貴方の是認、協議、心使いの暖かさは嬉しかった。“高弟”として扱われる事は気分が良かったけれども些か疑問もありました：あのように怒り、苦痛、混乱、悲嘆を抱いて去って行く人びとの事が現実として私の周囲で行なわれている限り、私は“高弟”という名の梯子の下の子犬でしかない。5年、私の人生の内“高弟”と言う名の下に費やした期間でしょうか？

しかし貴方はよく承知している事ですが、視界に無く、心に思う事もない、既に目の前に居ない、去って行った人びとの事を心配ばかりもしておれない。

しかし長い間待っていた幽霊のように、これらの一部の人びとへの思いが、私の心の中で膨れ上がって来ました：マイクと、レイと、エステル、シーラ、ハロルド、エリフ、リア、ステイブ、ウェンデイ、二人のピーター、ノラ、二人のブルース、クリーブ、ポール、トム、もう一人のピーター、デーヴ... 思い出すリストは更に、さらに長く、私にとって思い出す事は非常に辛い事です。彼らはそれぞれ自分自身で決心して出て行ったのですが、これらは貴方が彼らに与えた害悪の結果なのです。ある人の理由は貴方が問題に対して直面することを拒否したため、又ある人は彼自身の誇りのため、ある人は貴方の欺瞞のため、ある人は恋人に嘲笑されたためでした。彼らが去った時私は理事会員の一人にこの事を質問してみました。“皆は自分の自由意志で出て行ったのだ。”と彼は言いました。それは間違いなくその通りで、論議の余地なく正しい... 彼らは人間について、人間にとって必要なものについて、行動の根拠について、又他によって愚かしくも傷つけられた人の苦痛について話し合う事を拒絶した点である意味において正しいと言えます。私はこの禅堂ではこの程度の待遇しか期待出来ない事を学びました。事態が難しくなると権威筋は、多分古代の師達は簡潔であったと言う概念のもとに、成り行きを天に任せ、自らの疾しい心に膏薬を塗って片付け、その根底にある臆説は：標準というものがそもそもないのであるから、標準等私は要らないということです。二つの点でこの臆測には難点があります：1. 古代の禅師の真似をした所で古代の禅師と同等にはなれないと言う事、そして、2. は師のもとを去った弟子達（古代の）は、悟境の認可を主張する事を許され、少なくとも、正道の修行を継続するよう師の激励と指示を受ける事です。禅スタディ ソサイエティの場合は、去って行く人びとは、誇り、欺瞞、真つ正直であること

に不本意である事、東洋の“顔”の背後に隠れているものなど禅弟子のために良くないものを捨てて行くのです。傷ついた人を更に攻撃する事は、巧みな手段と同等視する事は出来ない。私はこれを非常に破壊的な自己中心癖と見ます。

今、又、事件が再発しました。まず、ピーターとデーヴが理事会宛に手紙を送りました。この二人はある日記と会員の女性より貴方に宛てたラブレターを同封して送りました。ピーターが何と言ったか知っていますか？彼は“私達（デーヴとピーター）は純真だった。私達は栄道老師を1週間以内で追い出す事が出来るであろうと信じていた。私達は理事会が行動を起こすであろうと思っていた。私達は純真すぎた。”と私に言いました。

次に私の手紙です。私は貴方に対して“非難する気炎ではなく、事態の息苦しい、カビ臭い、狭苦しい場所に少し空気を送るような望みをもって”穏健な調子で書いたと思いたい。

その次は■■■■の手紙です。彼女は大菩薩において、彼女や他の女性達に向けられた“セックスの恐喝”について、その推移を注意深く語っています。彼女はどのような経路で女弟子の修行に問題が生じて行くかという事実を、なんと明快に説明したか；当然の事ながら、その後で彼女達は修行のため、心の奥に潜む師に対する疑いと恐怖を解放したいと試みた；それを貴方は、この心の解放をその人間の弱さの徴と解釈して、性交渉への招待と見なした事を彼女は明快に指摘しています。

やがて理事会議が開かれることになり、表面は公平無私に見えました。殆どの理事会メンバー、会計係の貴方の妻も、幾人かの弟子、私もその一人でしたが招待されました。禅スタディソサイエティの会長のシルヴァンブッシュも私を招待してくれました。“貴方の手紙についてこれから私達は相談します。”と彼は言いました。ピーターとデーヴの情報と手紙が私の手紙の基底になっているのですから、彼らも出席するのでしょうか、と私は尋ねました。この時点で彼は非常に曖昧になり、私の手紙を受け取って以来、彼の取って来た行動について語り始めました。私は再度ピーターとデーヴは来るのかと尋ね、更にこの二人は、最近禅堂を出る迄長い間弟子であった人達であり、私達の手紙は二通ではあるが、書かれている内容は一つであると言うと、彼は又私の手紙を受け取って以来の彼の行動を説明し始めるのです。貴方もご存知なのですが、私の推測は正しく、デーヴとピーターは招待されていませんでした。この時点で私は、自分は単身この会議に出席する積りは無いと言いました。何故かと言えば、私はジャンヌダルクを一人で演じるのはまっぴらだから；貴方の支持者で満員の部屋で一人殉教者に、或は犠牲者になるのは馬鹿げている。私がここに来た事が既に、貴方と貴方の理事会の夢、正直と公明正大を本音とする筈の会議を支持した事になります。そのような事があってはならない。これは唯単に、都合の良いもう一つの欺瞞でしかない。

ジョージがどうなったか見てご覧なさい。

ジョージ、あの静かな、勤勉な、活動的又は短気からほど遠い男が、勇敢にも一人で貴方に面接し、貴方は本当に師弟が心を解放して話し合うべき独参室で女弟子を誘惑したのかと詰問しました。貴方はジョージに何と答えたのですか？それとも真剣な弟子の質問に激烈な反対尋問で、この噂を何処の誰から聞いたのかと聞き返したのでしょうか。私は後者だと言う事を知っているのです。

そしてジョージも去りました。

会議で私の手紙について協議したのでしょうか？ 答えは否です。 そうです、私は聞いたのですが、貴方の妻は私の欠席に対して侮蔑的だったそうですが、もとより彼女は侮蔑的な女でした。 そしてその通り、貴方は結局人を禅堂から破門にすることは取りやめにした... 何故かと言えば、ピーターは彼の祖父（判事）に確かめた上で、免税の組織では、人を追放する事は違法である事を貴方に教えたからです。 しかし貴方は独参室でセックスを強要した話は相談しましたか？ 否。 この広いニューヨークで... 禅スタデイ ソサイエティに興味も関係もない女性の中から妾を見つける可能性については？（貴方は妾を持つ決心をしているようですから） 否。 ■■■■■の手紙については？ 否。 ピーターとデーヴの手紙は？ 否。 これが、正直と公明正大の良い例です。

シルヴァンに送った後の手紙で、理事会の私の手紙に対する反応を書き送って欲しいと注文しました...

“でも、貴方は理事会の全員に手紙を書かなかったよ、”と彼は言いました。

“私は君に宛てて送った。君は会長だ。”と私は答えた。

“そうだが、貴方は理事会全員に宛てて手紙を送らなかった。 貴方は私個人に宛てて送った。

“手紙は禅スタデイの会長としての君に送った。 手紙の宛名を見てごらん下さい。”

“やあ、それでも全理事会員はコピーを受け取らなかった”

とうとう私は彼を諦めた、確かに理事会は私に対して返答を書いて寄越す意思はないようでした。 賢いやり方です。 語り言葉と言うものは容易に忘れられます。 貴方は後で、ピーターに禅堂の立ち入り禁止を命じた覚えはないと言いましたが、実はジョージがピーターを招き入れたということで、ジョージはひどく叱責されました。 その後貴方は又態度を変えて、実際に彼を追い出したのは、貴方の妻だったのですが、“誤解だった”と言いつけました。

そして今では、貴方は“崇高な沈黙”を決め込んで、貴方の言葉で言えばアメリカ人の弟子には理解出来ないと言いました。 貴方は最早恥じを忍んであの件を喋る必要はなくなりました。 崇高な沈黙？ どのアメリカ人が理解しなかったのですか？ もしアメリカ人に貴方の教えを理解する能力がないならば、なぜ貴方はアメリカへ来て教えているのですか？ これが“崇高な沈黙”であるものか、それともニクソンの沈黙のように、立法者の沈黙で彼は法の上に立つ人間であり、法に従う必要はないとでも考えているのでしょうか？ “よくも俺に向かって生意気だ！” 貴方は一度以上、噂について自由に語る連中に向かって叫びました。 よくもこの俺に向かって？ しかしこの噂は噂ではないのです。 私自身、貴方が独参室で言い寄った女性を少なくとも3人は知っています。 私はこの同じ数の貴方と床を共にした女性も知っています。 私は数を数えている訳ではありませんが... 相当数に登る... 又聞きですが信頼出来る筋からの情報です。

何と言う生意気な？ 彼らが敢えて挑戦する訳は、数限りない目撃者を知っており、証拠は確実だからです。 彼らが敢えて挑戦する理由は、真っ正直な調停を勧める声に対してさえも、貴方は全力を尽くして相談を避けようと試み、修行場の血肉とも言うべき主要人物に対してさ

え、脇へ反らす事に賢明になっている。“誰がそのようなことを言ったのか？”と貴方は質問します。“只の噂だ”と貴方は言う。そして又、貴方が自分で答える事の出来ない質問に対しては、理事会のメンバーを送り出してカモフラージュの弁護を試みる。彼らも挑戦します、なぜならば、正直であり誠実でありたい気持ちは彼らも同じなのです。

私もそれを望みました。しかし私は現実を見すぎました。私は自分に言い聞かせました。“あは！彼は変わりつつある。なんと柔らかく、なんと慈悲心に満ち、公明正大に見える事よ。多分彼もこの自己破壊的な道楽や、自分は誰よりも優れていると言う思い上がりや、誤摩化し、否認、裏切りから遠退いてくれるかもしれない。”しかし私は馬鹿だった。再び、又再び、彼のセックス問題が表面化し、人びとはこの話で持ち切りになりました。セックスの話は面白い。しかしこの件においては、それは極めて第二義的です。それは全体的に同じ事の繰り返しなのです。

正に、貴方の通った道には死体が山をなし、貴方の自己中心癖を満足させるために不必要な程に多数の人びとを利用しました。禅スタデイ ソサイエティ滞在中私は貴方の不要になり、非友好的な人びとを放逐してゆく概念を黙って支持しました。これは私の道義心と私の存在そのものを犯すものでした。皮肉にも一部これは私の禅修行のためでしたが、今はもうこのような事はしません。禅は優れた修行であり、役に立ち、修行を続けて行く過程に置いて味わいを発見するものだと思います。しかし修行が本物であっても、組織や師や支持者もそうであるとは限りません。時にそうであり、時にそうでない事もあります。確実性はありません。

ある時一人の師が“如何にして師が本物か、そうでないか見分けられるのか？”と尋ねるのを聞きましたが、彼は答えて“それは分からぬ、泥棒を捕えるには泥棒でなければならない”と言った。

この手紙を書いている私は泥棒を捕えたような気分にはなれなかった。私は疲れしました。私は他の人びとが貴方を本物の師だと思おうとしても大して構わない。唯私には出来ないと言っただけです。

禅は優れた修行です。私は私の禅修行において貴方の果たした役割に感謝します。良い修行でした。貴方も何時か試してごらんください。

アダム フィッシャー  
1979年 3月 29日